

<http://bluediary2.jugem.jp/?day=20101218>

2010.12.18 Saturday 「オランダのアート&デザイン新言語」

author : [T a k](#)

東京都現代美術館で開催中の

「オランダのアート&デザイン新言語」



オランダという国の芸術作品というと、大抵フェルメールにレンブラントといった17世紀オランダ黄金時代（日本では江戸時代）の頃の作家の作品がせいぜい頭に浮かぶ程度。

デザインではリートフェルトやモンドリアンそれにミッフィー（ナインチェ）の生みの親ディック・ブルーナくらいでしょうか。

しかし、一度オランダという国に降り立ってみると、まさにデザインの国であること数分歩いただけでもうなずけるはず。伝統的な芸術作品を保持しながら斬新な現代アートも片方では大好きなお国柄を色濃く反映したデザインがそこかしこで活用されているのです。

デジタルなのに人間がせつせと時間を書き換えている姿。ゆる〜い感じで観ていて飽きることはありません。ふと滑稽さをも感じ取れる、鑑賞の振り幅が非常に広い作品です。

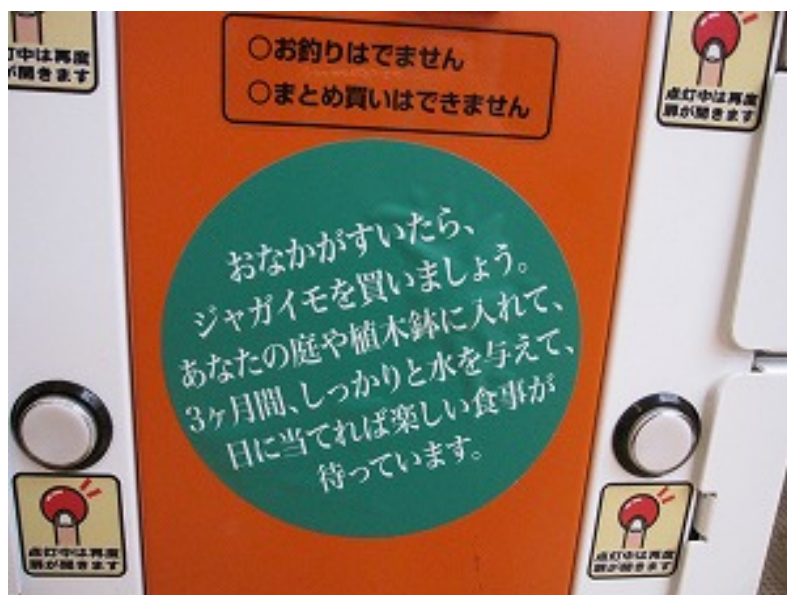
他にも社会問題をユーモアを交え「作品」に仕立て上げているものも。



作家：マルティン・エンゲルブレクト CC / BY-NC-ND

オランダの街中や駅構内にはこれと似たコロッケの自動販売機があります。はじめ遠目に見た時はその「コロッケの自販機」はと思ったのですが。。

何と自販機の中にはコロッケでなく、ジャガイモが！



そしてこんな注意書きまで。

ただの自販機ではなくかなり社会的なメッセージも孕んでいそうな作品？でした。

因みに参考までにオランダのコロッケ自販機もご紹介。



「コロッケ」の自動販売機アムステルダム駅にて撮影

お金（ものによって違いますが1ユーロから1.5ユーロ）を投入し好きな扉を開け中からコロッケを取り出しその場でパクリ。

↑

因みにこの画像、南アフリカW杯対戦国紹介の際に某テレビ局で使われました。